

国立国会図書館関西館

建築場所 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3

【本館】

建物概要 地上鉄骨造 地下鉄骨鉄筋コンクリート造 地上4階 地下4階
58,768.68㎡

工事概要 新築工事

竣工年月 2002年8月

事業者 国立国会図書館・近畿地方整備局

設計者 陶器二三雄建築研究所

施工者 建築: 竹中・住友・五洋特定建設工事共同企業体ほか

設備: きんでん・旭日特定建設工事共同企業体ほか

図書館設備: ライオン・イトーキ・文祥堂経常建設共同企業体ほか

植栽: 住友林業緑化株式会社ほか

監理者 国土交通省近畿地方整備局営繕部

陶器二三雄建築研究所

【本館】

（環境配慮）

自然光の取り入れ、効率的空調ゾーンシステム、雨水再利用設備、建物の地下化、屋上及び中庭の植栽、センサー制御

（木材活用）

床の一部にフローリングを使用、壁面の一部、閲覧室家具に木材を使用

（生産性向上・DX）

ISO9000s適用モデル工事、建設CALS/ECの試行

（防災・減災）

十分な靱性の確保、地中に接する部分の外防水、書庫の周囲に機械室、廊下を設置し、書庫内に直接浸水しない設計、書架の転倒防止対策

（その他）

関西文化学術研究都市の中核施設としての象徴性を持った佇まい、失われた雑木林の再生、電子情報機器が導入された閲覧室と、変化の激しい情報システム環境に柔軟に対応する空間の在り方、フレキシビリティと高効率を前提とした閲覧、管理諸室の合理的配置及び図書の効率的収蔵と保全の技術的解決

【書庫棟】

建物概要 鉄骨造(一部鉄骨鉄筋コンクリート造) 地上7階 地下1階 24,998.07㎡

工事概要 増築工事

竣工年月 2020年2月

事業者 国立国会図書館・近畿地方整備局

設計者 株式会社日本設計

施工者 建築:五洋建設株式会社

電気:住友電設株式会社

機械:大成設備株式会社

監理者 株式会社礎建築事務所

【書庫棟】

(環境配慮)

収蔵環境保持のため、外部負荷の影響を極力抑えるよう建物外周部にバッファゾーンを形成
バッファゾーンは外断熱に加えクールピットにより安定した地中熱を利用することにより、
空調負荷を抑制

LED照明、センサー制御、書庫配置を考慮した照明配置、作業エリアへの北側からの自然採光、
太陽光設備、雨水再利用設備

書庫内の空調は上部から給気し対角下部からの還気とし、また側板に孔が空いた書架の採用により、
高密書架においても良質な気流性状を実現

書庫と共用部の仕切りに熱負荷抑制と紫外線カットを考慮したガラススクリーンを採用し、見学者等
に対し収蔵物を「見える化」

(生産性向上・DX)

施工合理化技術の活用

UAV(ドローン)撮影による全景工事写真の撮影及び状況把握、並びに法面掘削工事においては
UAV測量による迅速かつ正確な施工計画の策定など、施工の合理化を実現

タブレット端末を利用した施工管理(施工図などの持ち運び・工事写真撮影などの簡素化)、デジタル
サイネージの活用による安全・環境・品質面の指導・意識の共有化

【書庫棟】

（防災・減災）

十分な靱性の確保、適切なブレース配置、建築構造の応答解析に応じた耐震性能設定、書籍の落下防止対策

地中に接する部分の外防水、底盤部には湧水マットを施工

不活性ガス消火設備を設置することで、初期消火による収蔵物への損傷に配慮

（その他）

高さを抑え、かつ東西幅を揃え、本館が持つ景観を意識

本館の繊細で透明感のあるガラスで構成された外観に対し、重厚感（石・金属）のある佇まいによる対比的な調和

本館の玄関ガラスキューブに相対し、書庫棟にはガラス張りのセンターコアを配置し、本館の軸線を継承するとともに、相互の視認性を確保

段階的な増築計画を見定め、敷地を最大限に有効活用した配置計画

全景



全景



エントランス



閲覧室



本館書庫



本館自動書庫



書庫棟外観



書庫棟 書庫



書庫棟 見せる書庫



国立国会図書館関西館 書庫棟

——企画から保全、さらに企画へ——

国立国会図書館の役割

- ・ 日本国内で刊行された全ての出版物が納本される
- ・ これらの図書を一般に公開する我が国唯一の国立図書館

関西館 建設に至った経緯

- ・ 狭あいになった東京本館の収蔵能力を補完
- ・ 近年の急速な情報通信技術の発展に対応した図書館サービスの提供



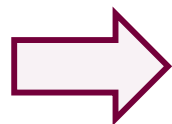
東京本館



関西館

東京本館・関西館が一体となり、図書館資料を収蔵、国民の文化的財産を未来の世代へ伝える使命を果たしている

東京本館・関西館とも蔵書が増加、「書庫機能に特化」した新たな施設が必要



関西館 書庫棟整備へ

関西文化学術研究都市の中心地域にあり、
周辺には研究施設、大学施設が立地

■ 所在地

京都府相楽郡精華町精華台8-1-3

■ 敷地面積

82,665m²

■ 建築面積

4,680m²

■ 延床面積

24,998m²

■ 構造・階数

S(一部SRC)－7－1

■ 与条件整理・企画・検討

約4年10ヶ月

■ 設計

約2年

■ 工事

約3年5ヶ月

■ 設計者

(株)日本設計

■ 施工者

〈建築〉五洋建設(株)

〈電気〉住友電設(株)

〈機械〉大成設備(株)

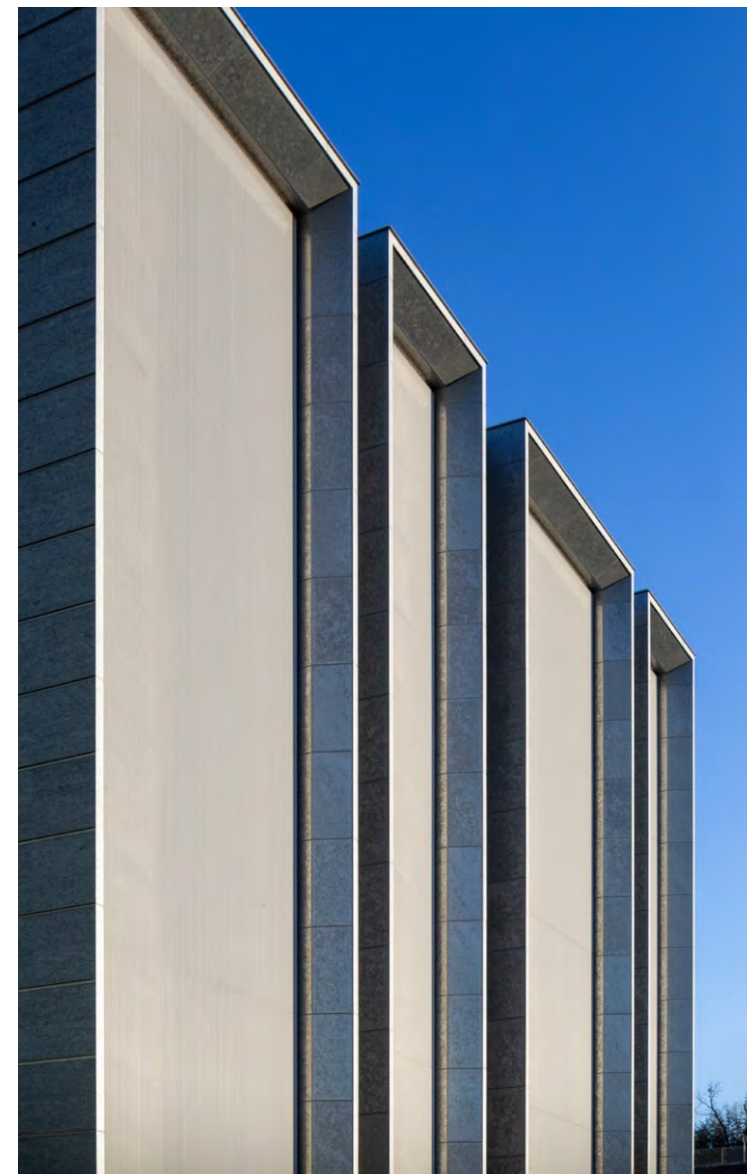


事業目標

- ・「書庫機能に特化」した書庫棟の整備を行う
- ・ 国立国会図書館全体の 収蔵能力の拡張 を図る

重点整備項目

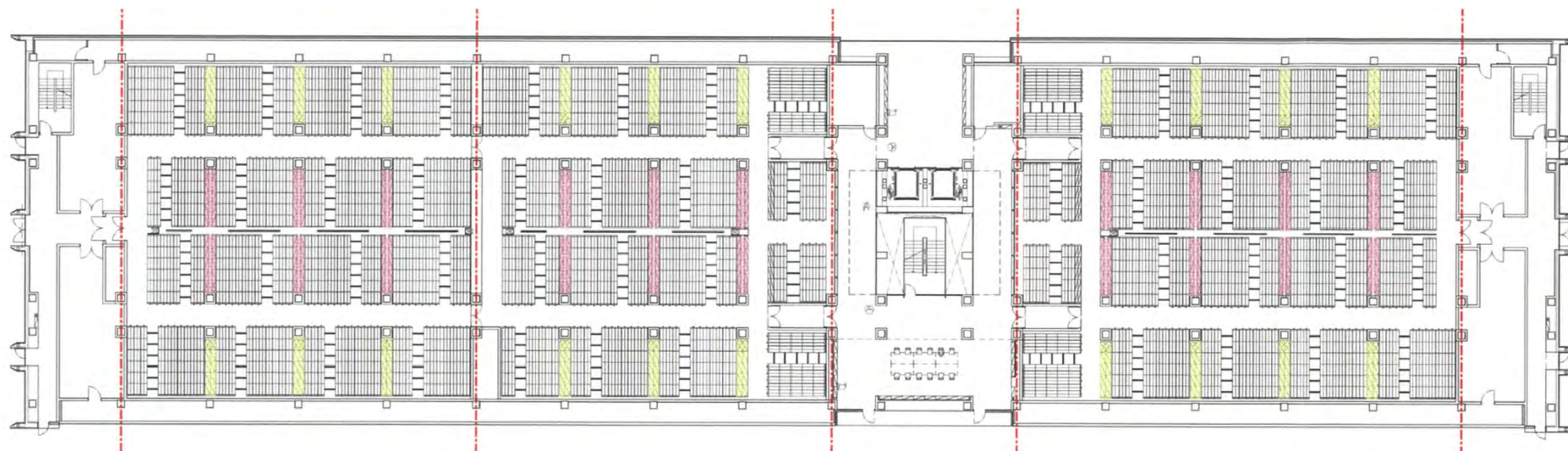
- ・ 「機能面」・「安全面」・「環境面」・「景観面」
多様な視点が調和した高性能書庫の実現
- ・ 第2段階以降、「将来面」を見据えた整備計画



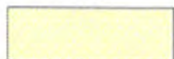
書庫棟 東面 外観

限られたスペースを活かし、たくさんの書籍を収蔵する

- ・ 移動書架のモジュールに応じたスパン割、階高設計
- ・ 長手方向に2通路、通路両側に移動書架を配置
- ・ 柱のモジュールに沿って規則的に固定書架を配置



=凡例=

 : 大型本用複式固定書架

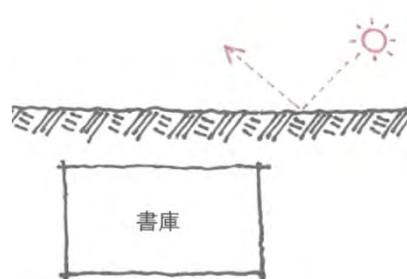
 : 複式移動書架(6段)

 : 単式固定書架(5段)

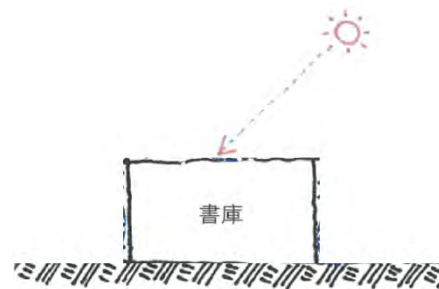
基準階 書架配置計画

外部負荷の影響を抑える、書庫内の温湿度環境維持

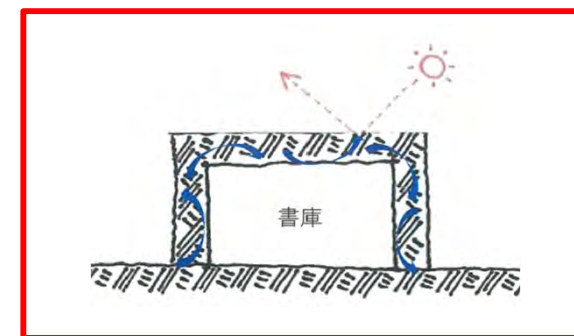
- ・ 建物外周部にバッファゾーンを形成
- ・ 側板に孔があいた書架を採用
- ・ 空調は、上部から給気、対角下部から還気



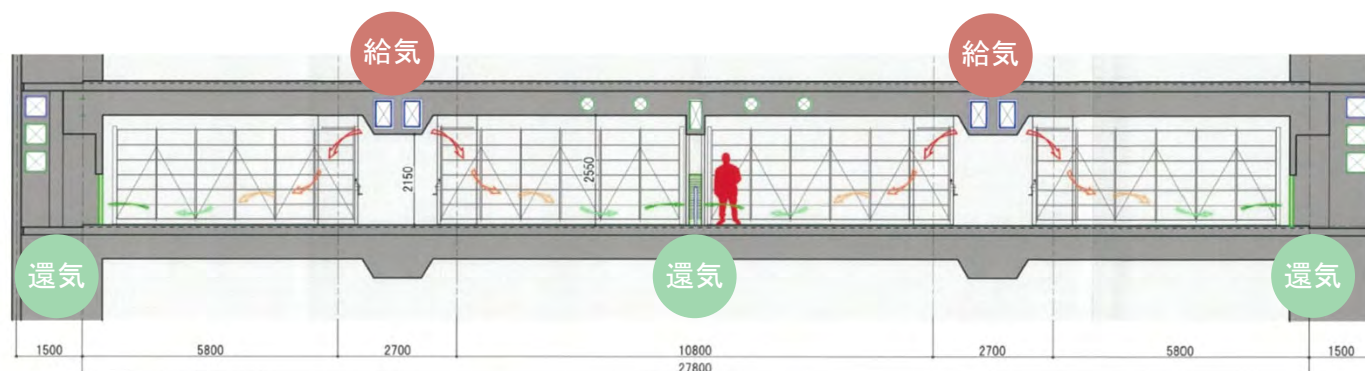
地下書庫(本館)の状況



地上部書庫の状況



バッファゾーンのイメージ



書庫内の給気・還気の気流イメージ



側板に孔のある書架

書庫の「見える化」、見学者へ収蔵力をアピール

- 書庫と共用部の仕切りにガラススクリーンを採用
- 熱負荷抑制と紫外線カットを考慮

設計段階から力を入れて
検討したことで、実現



中央廊下から見える書架

高い耐震性能の確保、書籍の損傷対策

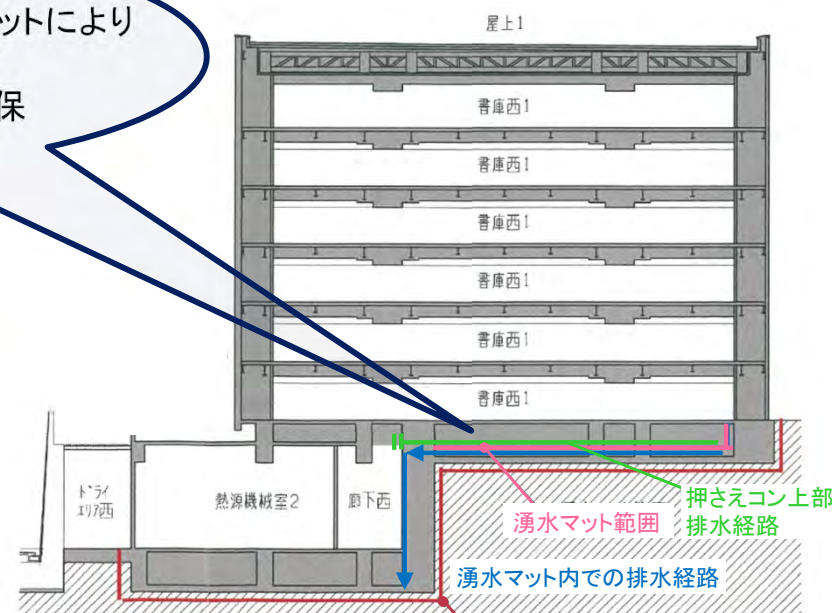
- ・ 十分な靱性の確保、適切なブレース配置
- ・ 建築構造の応答解析に応じた耐震性能設定
- ・ 書籍の落下防止対策
- ・ 不活性ガス(窒素)消火設備の設置
- ・ 地中に接する部分は外防水、底盤部には湧水マットを施工

震度4レベルの揺れを感知すると
ラッチが外れ、書籍類の落下を阻止



落下防止対策

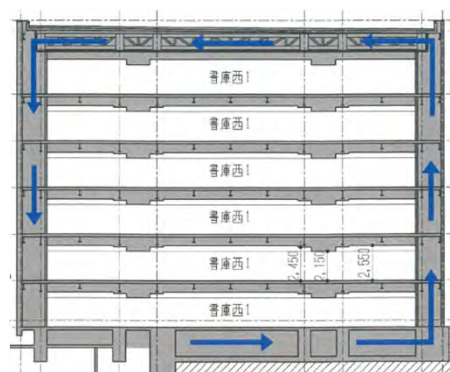
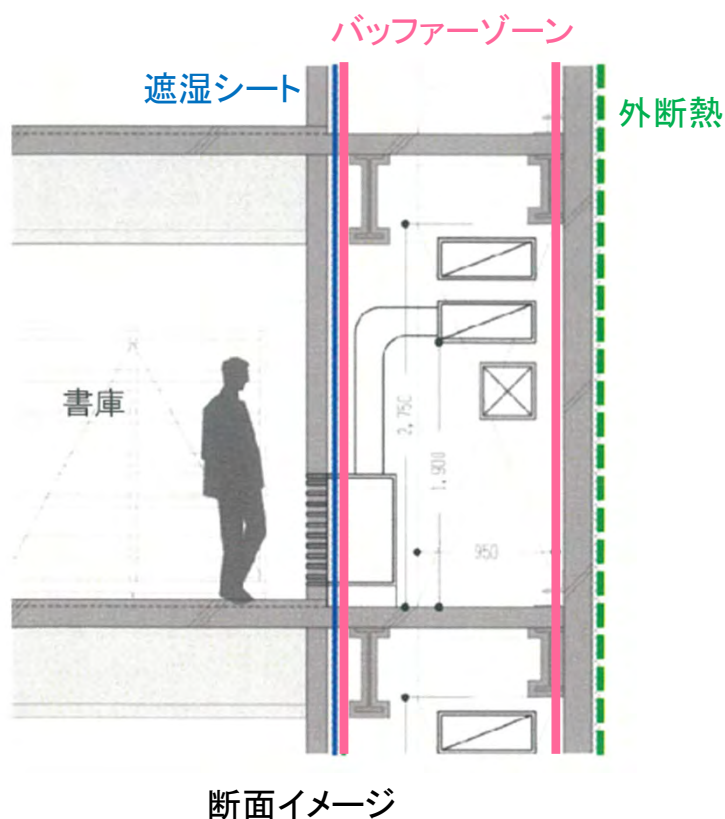
- ・ 湧水が侵入した場合でも、湧水マットによりピット部に湿気が侵入しない計画
- ・ マットと躯体の間に排水経路を確保



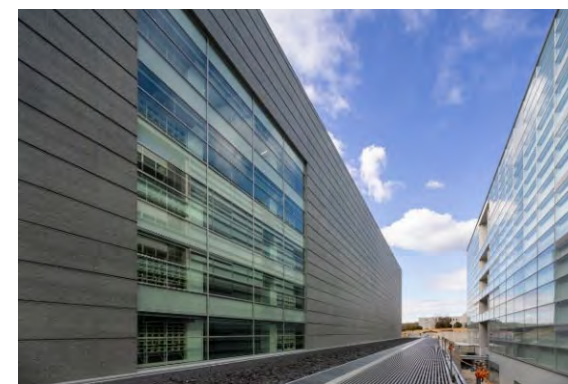
湧水浸入対策 外防水範囲

環境負荷低減、自然エネルギーの活用

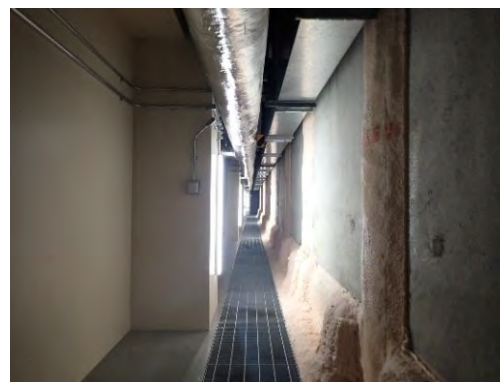
- バッファーゾーンの形成にあたり、外断熱・クールピット(地中熱利用)を採用
- LED照明、センサー制御、書架配置を考慮した照明配置
- 太陽光設備、雨水再利用設備
- 北側作業エリアへ自然採光を確保



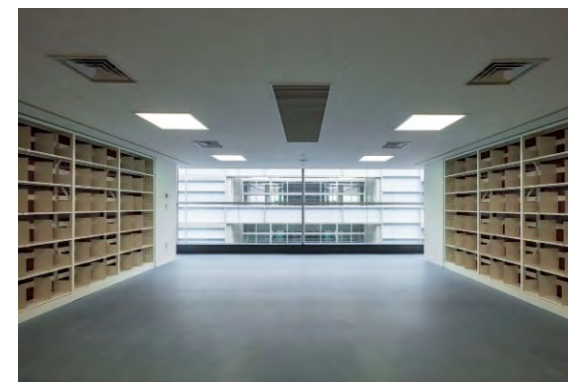
クールピットイメージ



北側:ガラスカーテンウォール



バッファーゾーン内部



北側作業エリア:内観

機能面

安全面

環境面

景観面

将来面

外観(正面)：対比的な調和

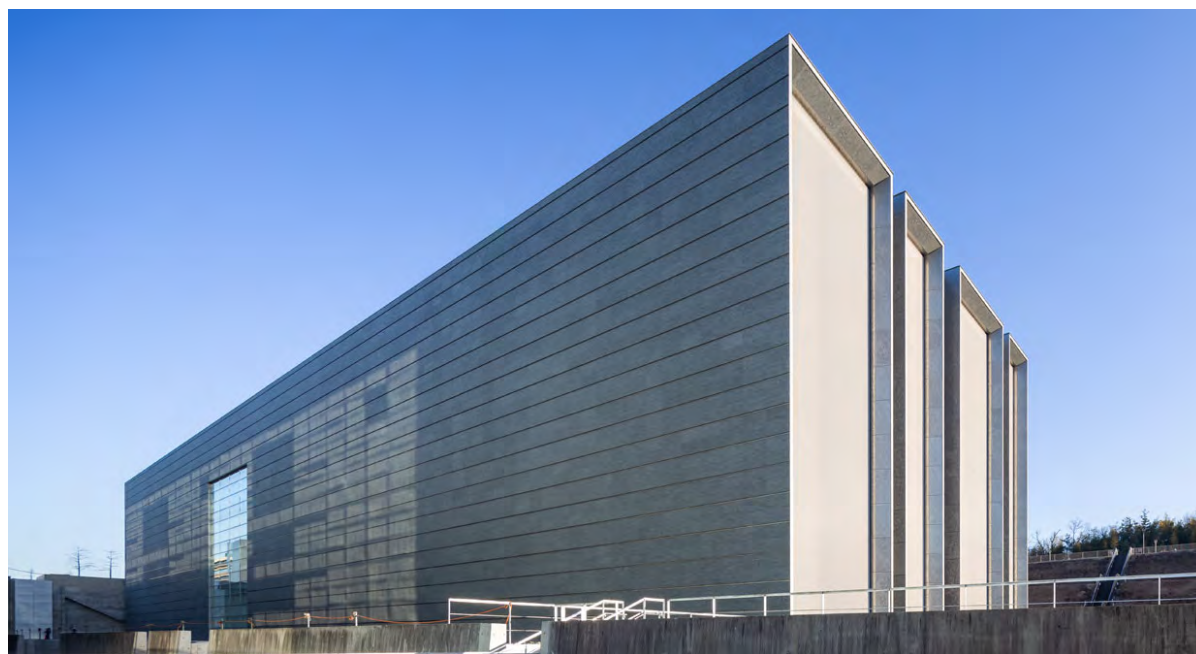
繊細で透明感のあるガラスで構成



重厚感(石・金属)のあるたたずまい



既存本館



書庫棟

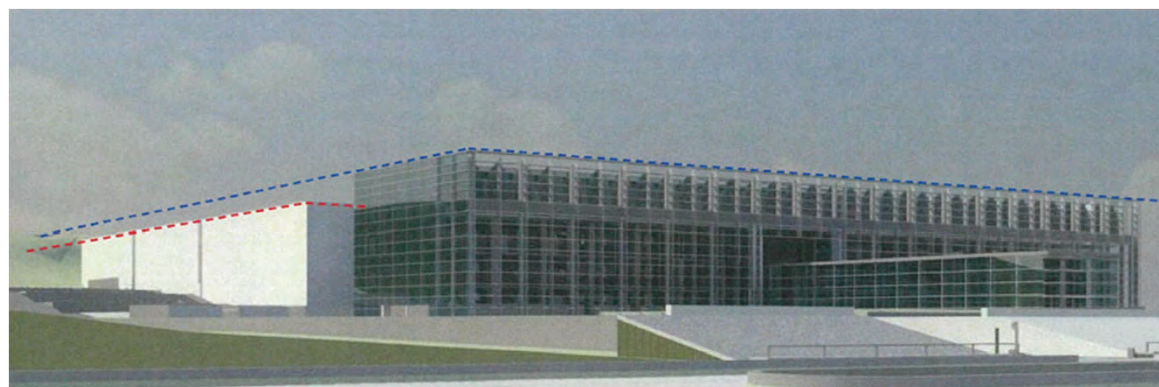
ボリューム計画：既存本館がもつ、景観を意識、尊重



既存本館 正面

ボリューム計画：既存本館がもつ、景観を意識、尊重

- 本館よりも高さを低くする
緑豊かな景観に溶け込む
- スカイラインの連続性
空に溶け込むような樹木のシルエット
- 東西幅を控えた
- 従属的な関係とした景観を形成



- 本館と高さをそろえる
- ✕ 空に溶け込むような樹木のシルエット、
スカイラインの連続性が損なわれる

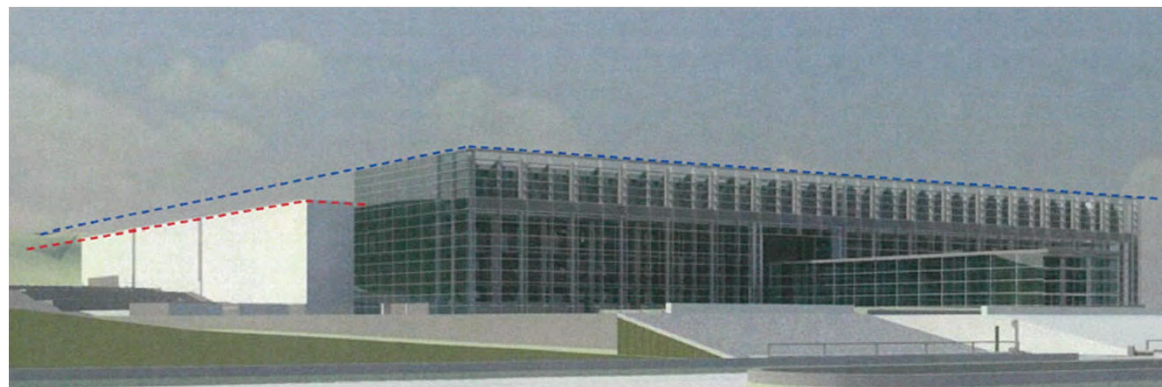


- 法面上部から地上6階建てを建設
(本館より高さが高い)
- ✕ 緑豊かな景観に溶け込むには、
巨大すぎる



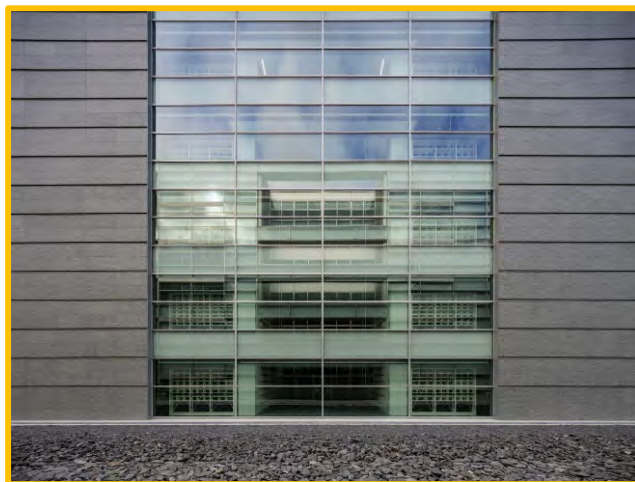
ボリューム計画：既存本館がもつ、景観を意識、尊重

- 本館よりも高さを低くする
緑豊かな景観に溶け込む
- スカイラインの連続性
空に溶け込むような樹木のシルエット
- 東西幅を控えた
- 従属的な関係とした景観を形成

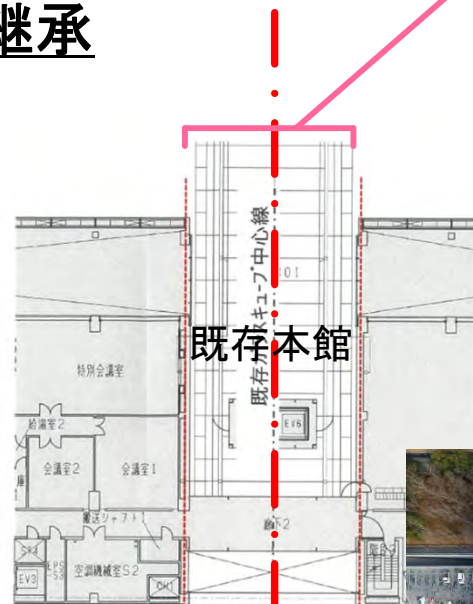


完成写真（既存本館・書庫の関係性）

既存本館ガラスキューブの軸線を継承



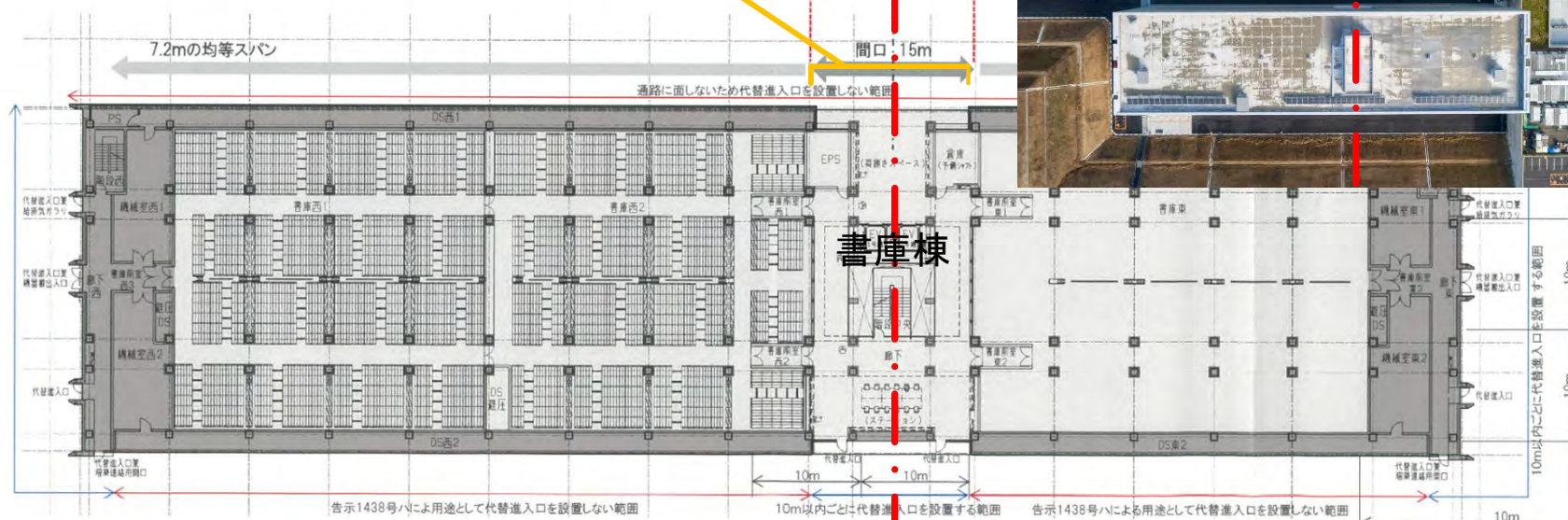
書庫棟作業エリア 正面



既存本館



既存本館 正面



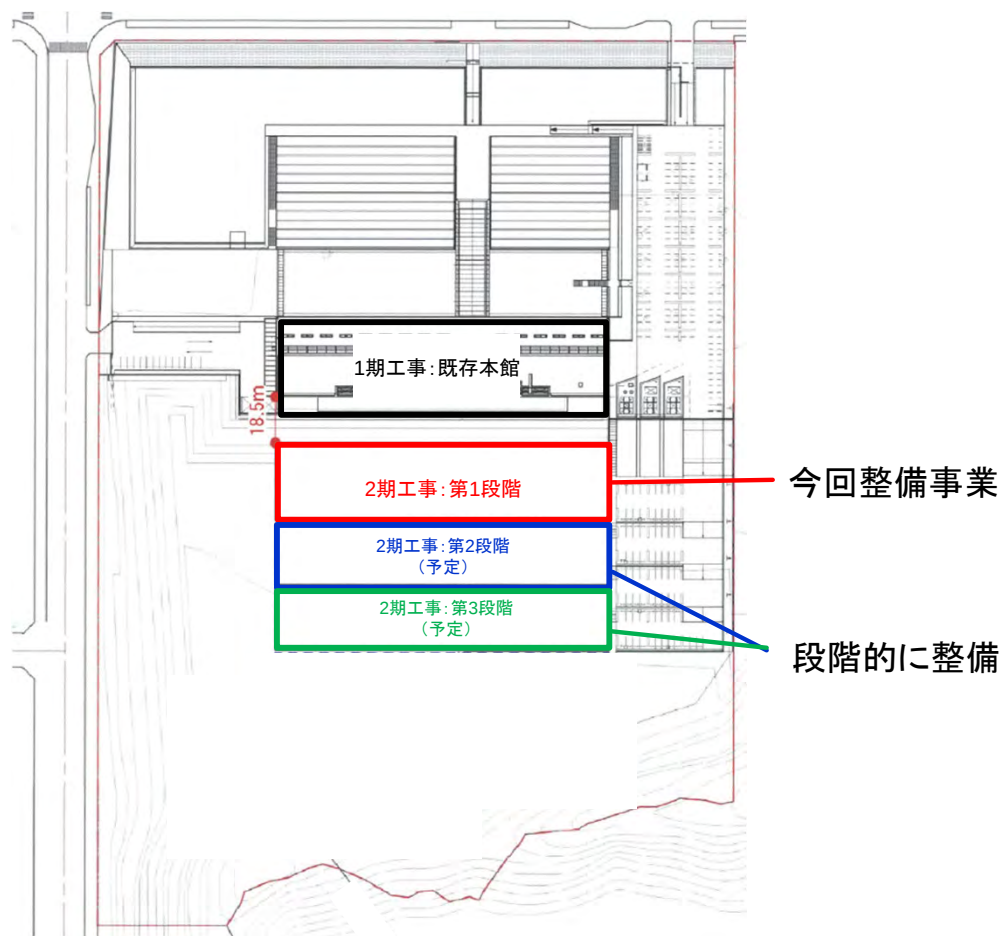
機器搬出入口部分で接続

15mの幅で接続

機器搬出入口部分で接続

将来の増築を想定した合理的な計画

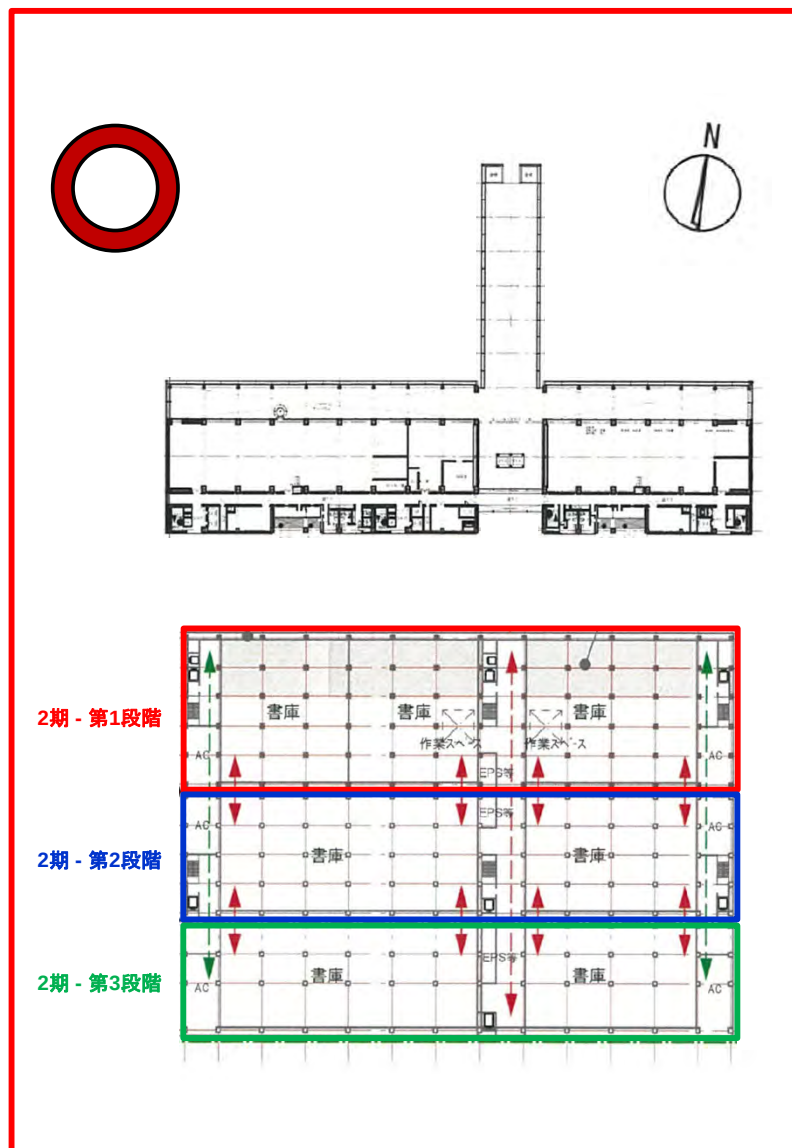
- 敷地を最大限に有効活用した建物配置
- 既存本館設備と増築側の設備の一元管理が可能な設備計画
- 第2、3段階での設備容量拡張を見据え、各種設備システムおよびスペースを考慮



段階整備計画

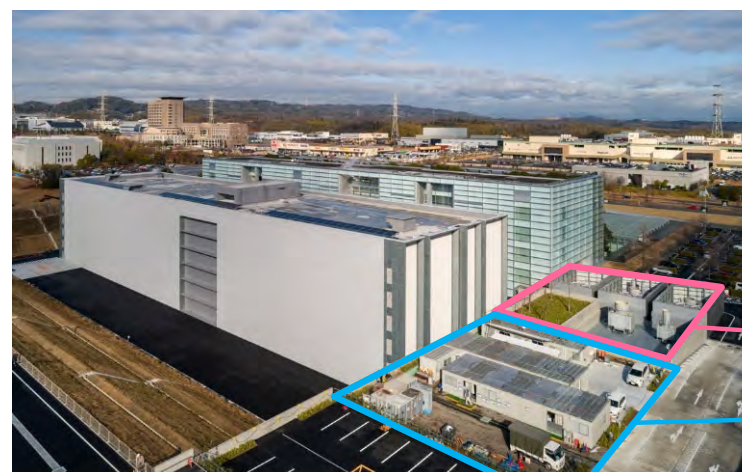


将来の増築を想定した合理的な計画



各段階の東西幅を合わせ、順次南側へ増築

- ・ 将来の法規制・要求事項の変更に対応するため、エキスパンションジョイントによる増築を前提
- ・ 外部設備機器スペース・増築時の工事ヤード確保



外部設備機器スペース

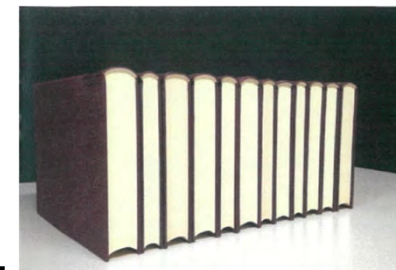
増築時工事ヤード

今回採用した増築計画におけるポイント

- ・ 動線計画が明快に拡張できる
- ・ 共用部と書庫を間仕切り壁で区画しており、温湿度環境の確保、セキュリティ区画形成がしやすい
- ・ 本館より東西幅を控えることで各段階での景観バランスを保持
- ・ 各段階で構造フレームを整えて、段階的な整備がしやすい...etc.

外観(東西面):書籍をイメージした連続性のある門型

- ・ 段階的な増築にあたり、連続性による資料や情報の蓄積を表現
- ・ 再現性・経年変化による極端な差が生じないように工業化製品を採用

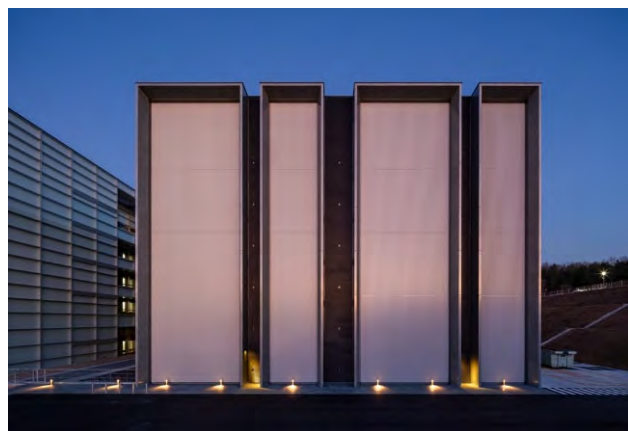


段階的に整備されていくイメージ

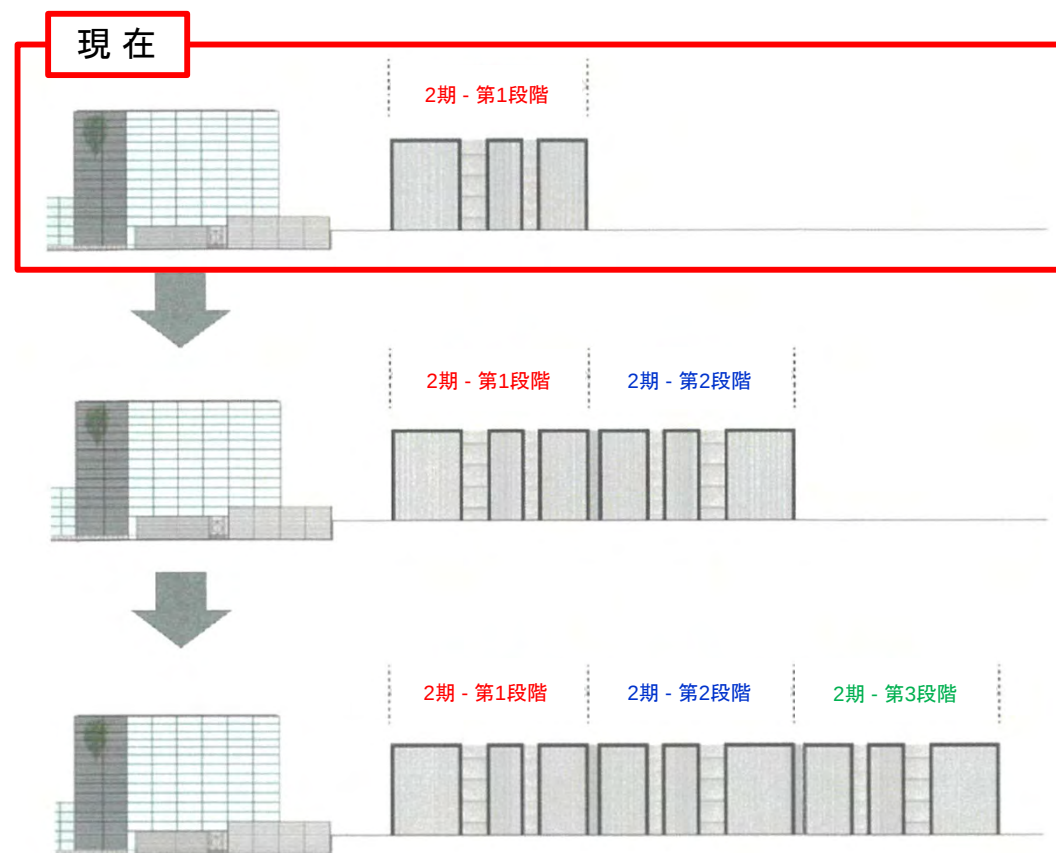
数十年先の製作に配慮



西面外観(日中)



西面外観(夕暮れ)



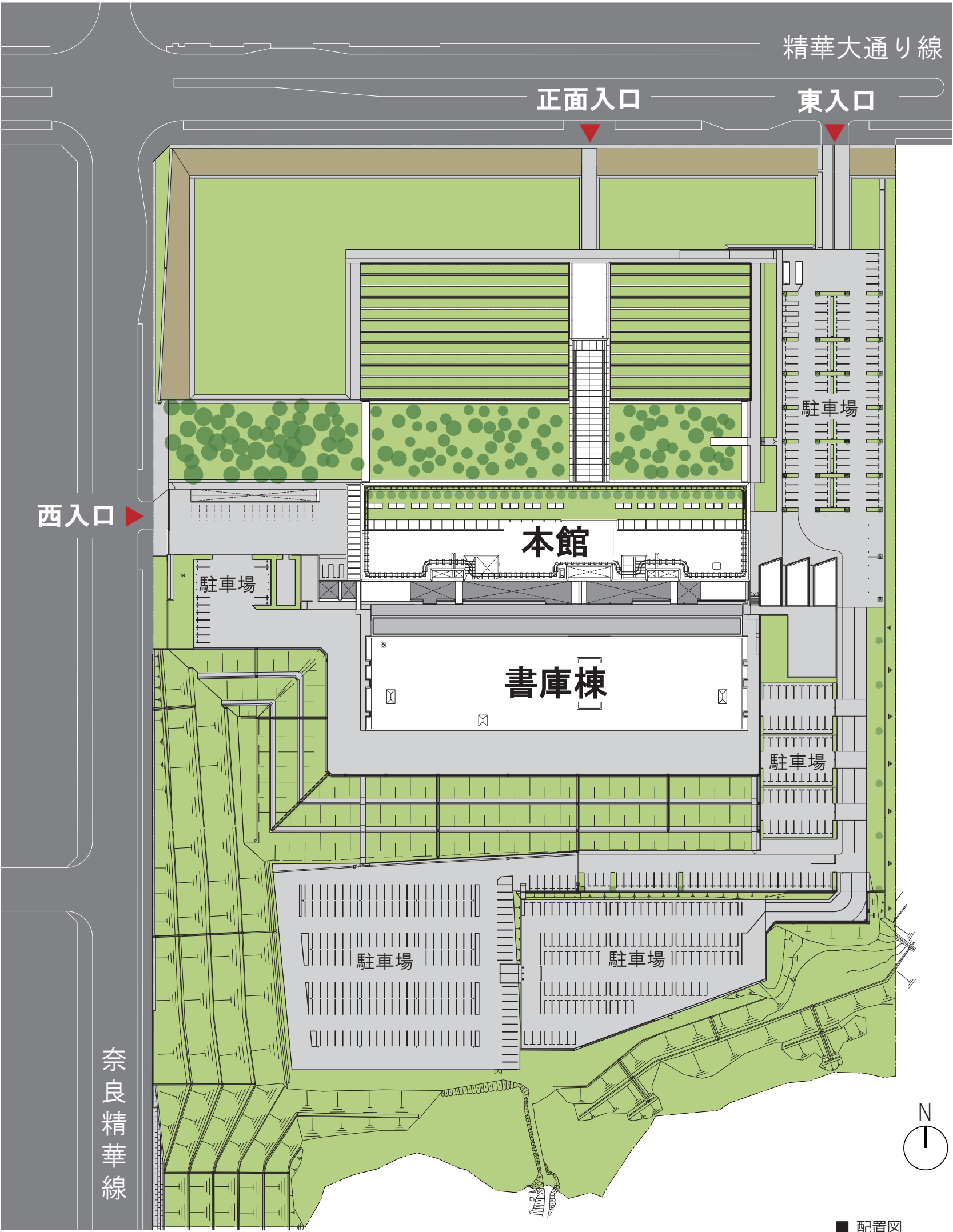
第2段階以降の規模や要求事項により、プロポーションが異なってきても、全体の景観形成としては、一定のユニット化された壁面で構成



■ 北西からの外観写真

■施設概要

施設名称	／ 国立国会図書館関西館書庫棟
所在地	／ 京都府相楽郡精華町精華台 8 丁目 1-3
地区地域	／ 準工業地域、特別用途地区、第 5 種高度地区、 法 22 条区域
主要用途	／ 書庫
敷地面積	／ 82,665.38㎡
建築面積	／ 4,680.24㎡
延床面積	／ 24,998.07㎡
構造形式	／ 鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	／ 地下1階地上7階
高さ	／ 26.47 m
入居官署	／ 国立国会図書館関西館
発注者	／ 国土交通省近畿地方整備局
設計者	／ 株式会社日本設計
工事監理者	／ 株式会社礎建築事務所
工事施工者	／ 五洋建設株式会社 住友電設株式会社 大成設備株式会社
竣工年月	／ 令和2年2月



■ 配置図

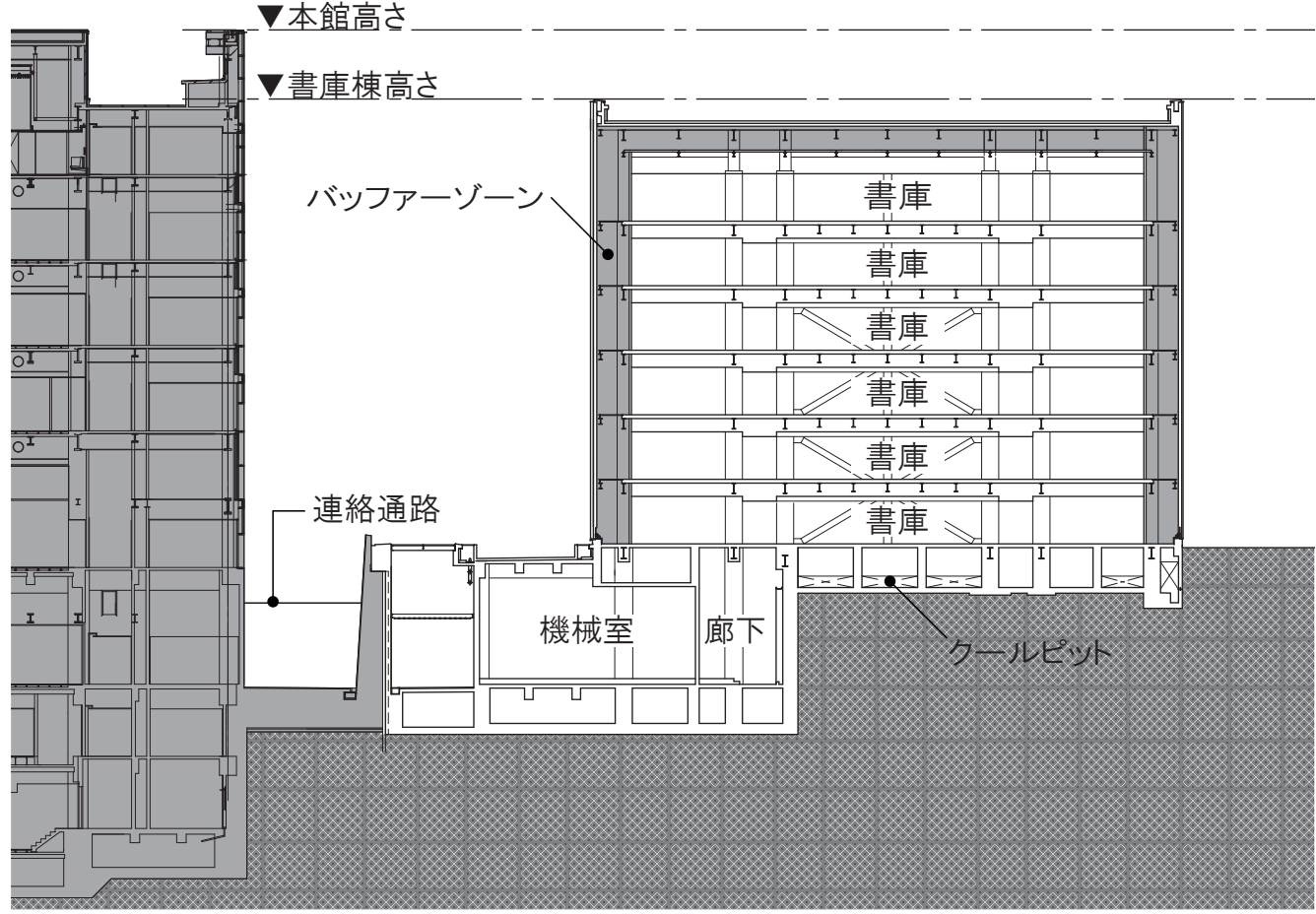
■計画概要

京都府域の関西文化学術研究都市にある国立国会図書館関西館に書庫を増築整備する計画です。

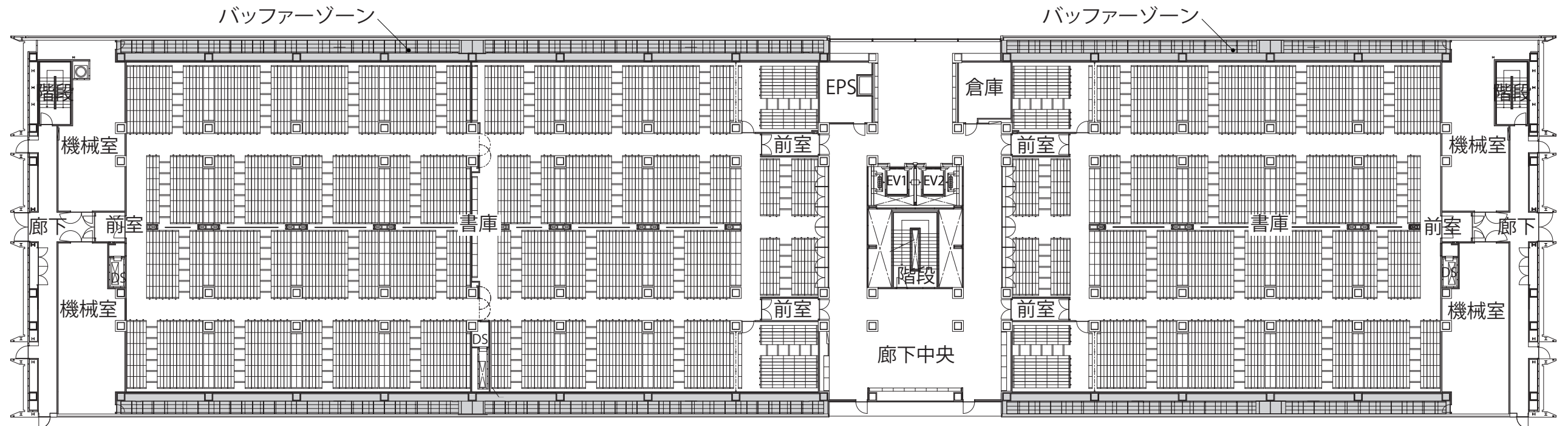
現状の敷地内に建設用地を造成整備し、後世に残す資料を収蔵する書庫を3段階に分けて整備する第1段階の事業です。

東京本館の収蔵能力の補完、出版物の大規模収蔵及び分散保存という関西館の基本機能を十分発揮するために、機能面、安全面、環境面、景観面の視点からバランスの取れた高機能な書庫の実現を目指しています。

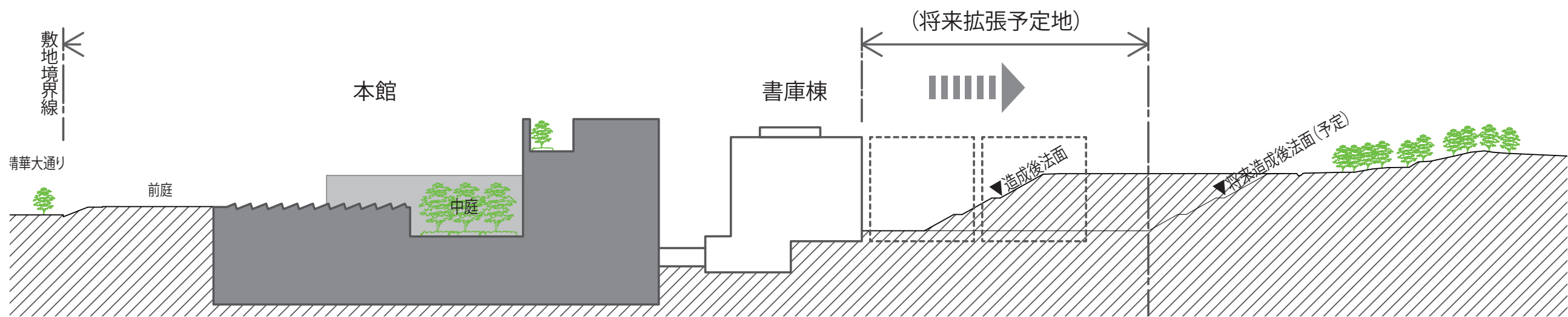
また、本館との景観的な関係や将来的な段階整備に配慮した計画にするともに、膨大な収蔵物の集積を感じることができる空間づくりとしています。



■ 断面図



■ 基準階平面図



■ 段階整備イメージ



■ 北西からの鳥瞰写真

■機能面

- ・将来的な段階整備を見据えた動線と設備ルートを計画しています。
- ・本館との関係を考慮したゾーニングとし、明快な書庫エリアを形成しています。
- ・書架に応じた寸法でモジュール設定し、約 500 万冊の収蔵が可能な高密度書架配置計画としています。
- ・書庫内を室温 22℃ (± 2℃) / 湿度 55% (± 5%) を制御目標とし、適正な保存環境を保持した計画としています。

■安全面

- ・書庫には不活性ガス消火設備を設置することで初期消火による収蔵物への損傷に配慮しています。
- ・十分な靱性の確保と適切なブレース配置により、耐震性能の高い構造計画としています。
- ・本館と一元的な管理が可能となるよう防災センターを改修し、シンプルで明快なセキュリティラインを構築しています。
- ・構造の応答解析に応じた書架の耐震性能を設定し、書物の落下防止措置を講じています。
- ・地中に接する部分は全て外防水をすることで湧水の浸入対策をしています。



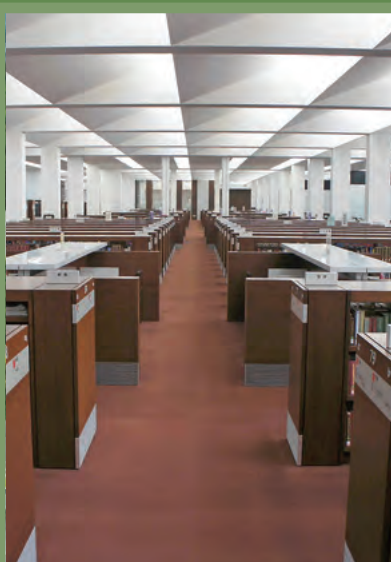
■ 本館と書庫棟間を東側からの外観写真

■環境面

- ・バッファークリーンゾーンを形成することにより外部負荷抑制に配慮しています。
- ・外断熱工法の採用、及びクールビットにより安定した地中熱を利用することで空調エネルギーの負荷抑制が可能となるよう配慮しています。
- ・雨水再利用設備を導入し、省資源化を図っています。
- ・建物運用上、適正な容量で太陽光発電設備を導入しています。
- ・LED照明、照明センサー制御を採用しています。

■景観面

- ・本館より高さを低く抑え、かつ幅を揃えることで従属的な関係として計画しています。
- ・本館ガラスキューブに正対した北側の一部をガラス壁面で構成し、作業エリアに自然採光を確保しています。
- ・繊細で重厚感のある外装とすることで本館との対比的調和を図っています。



国立国会図書館 関西館

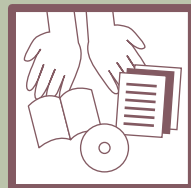
Kansai-kan of the National Diet Library



関西館の設置目的 大規模収蔵庫であり、高度情報化社会に対応した図書館サービスの拠点です。

国立国会図書館関西館は、資料の収蔵スペースを長期的に確保し、高度情報化社会における資料・情報に対する需要に対応するとともに、近畿圏における大規模な調査研究図書館としての役割を果たすことを目的に、平成14（2002）年4月に京都、大阪、奈良の三府県にまたがる関西文化学術研究都市（けいはんな学研都市）に設置され、同年10月に開館しました。

関西館の基本的役割 国立国会図書館関西館には、三つの基本的役割があります。



資料提供



図書館協力事業



電子図書館事業



国立国会図書館とは？

国立国会図書館は、国会に属する日本で唯一の国立の図書館です。
国会法第130条の規定に基づき、国立国会図書館法により設置されています。
「議員の調査研究に資するため、別に定める法律により、国会に国立国会図書館を置く。」
(国会法 第130条)

使命

「真理がわれらを自由にするという確信に立つて、憲法の誓約する日本の民主化と世界平和とに寄与することを使命として、ここに設立される。」

(国立国会図書館法 前文)

ネットワーク



役割

「図書及びその他の図書館資料を蒐集し、国会議員の職務の遂行に資するとともに、行政及び司法の各部門に対し、更に日本国民に対し、この法律に規定する図書館奉仕を提供することを目的とする。」

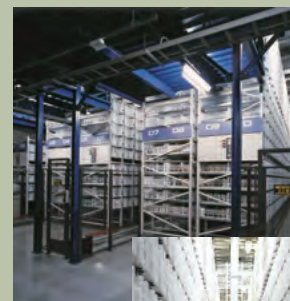
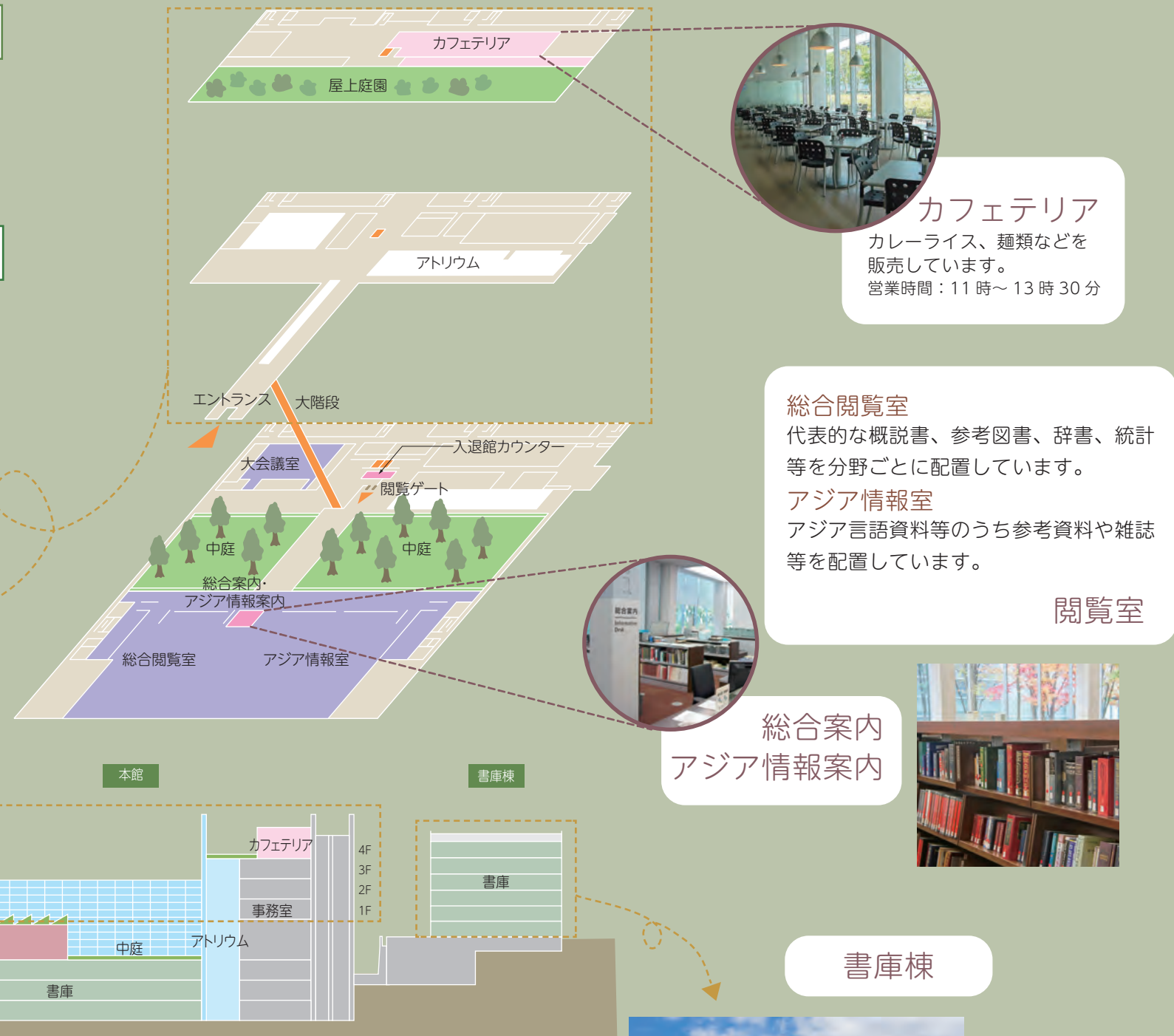
(国立国会図書館法 第2条)

国会活動の補佐

資料・情報の収集・整理・保存

情報資源の利用提供

各種機関との連携協力



関西館の書庫

- ①本館地下2階～地下4階
- ②書庫棟地上1階～地上6階（令和2年2月完成）

関西館の所蔵点数

約2000万点

書庫の環境

(目安)

温度：22℃
湿度：55%

関西館の主な所蔵資料

- 外国雑誌、主要な国内雑誌、科学技術関係資料、国内博士論文、文部科学省科研費報告書、学術文献録音図書
- 国内外の参考図書・基本図書、書誌・目録、官庁出版物等
- アジア言語資料、アジア関係資料

東京本館の主な所蔵資料

- 納本制度により収集した国内の図書、雑誌、新聞、電子出版物
- 外国図書、外国新聞
- 専門コレクション：
議会・法令資料、官庁・国際機関資料、古典籍資料、憲政資料、日本占領関係資料、地図資料、音楽・映像資料



資料提供

1 館内利用サービス



閲覧室の広さ
約4,500㎡
(100m×45m)

座席数
約360

アジア情報室
約3万冊

総合閲覧室
約9万冊

閲覧室

★ 総合案内
アジア情報案内

出納

閲覧申込

書庫

約2000万点

本館

地下2階～地下4階

+

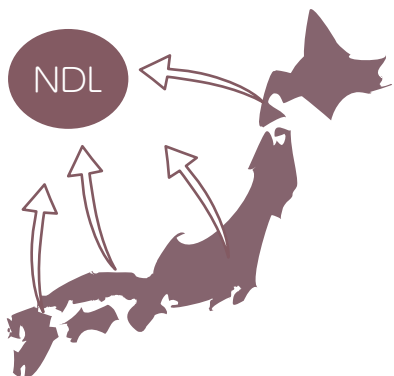
書庫棟

地上1階～地上6階

- 開架資料・電子情報の利用
- 所蔵資料の複写
- 研究室・共同研究室の利用
- レファレンス
 - 文献の調べ方や資料の案内、類縁機関の紹介等
- 書庫資料の利用・予約（要利用者登録）
- 東京本館・国際子ども図書館所蔵資料の取寄せ（要利用者登録）

当館の資料は、原則として満18歳以上の方であれば、どなたでも利用できます。
利用者登録申請には、住所・氏名・生年月日を確認できる本人確認書類（マイナンバーカード、運転免許証等）の提示が必要です。

2 遠隔利用サービス



国立国会図書館は、来館せずに国立国会図書館所蔵資料を利用できる遠隔利用サービスも提供しています。お近くの公共図書館等を経由して国立国会図書館所蔵資料の図書館間貸出しや複写の申込みができます。また、利用者登録をすると、国立国会図書館サーチからの複写申込みも可能です。



国立国会図書館サーチ
NDL SEARCH



図書館協力事業

国立国会図書館は、東京本館、関西館、国際子ども図書館の三施設で分担して図書館に対する協力事業を行っています。東京本館は図書館協力の方針の策定と、国際協力（文献提供サービス等は除く。）の窓口を担っています。関西館は、図書館協力（総合目録ネットワーク、レファレンス協同データベース、図書館及び図書館情報学の調査研究、研修交流、障害者サービスを実施する図書館への協力、ISIL（図書館及び関連組織のための国際標準識別子）の付与・管理等）の実施と文献提供サービスの窓口を担っています。国際子ども図書館は、児童サービスに係る類縁機関、学校図書館等との協力業務を担っています。国立国会図書館では三施設が一体的に機能し、図書館協力事業の一層の充実を図っています。

1 協力ネットワーク

総合目録ネットワーク、レファレンス協同データベース等のインターネットを介した事業を企画・運営しています。データベースは一般にも公開しています。



レファレンス協同データベース
Collaborative Reference Database



レファレンス協同データベース

2 図書館及び図書館情報学の調査研究

国内外の図書館及び図書館情報学の最新動向等を調査し、その成果を刊行物、メールマガジン等により公表しています。また、ウェブサイト「カレントアウェアネス・ポータル」で、刊行物の電子版やブログ記事等を提供しています。



CA Current Awareness Portal
図書館に関する情報ポータル



カレントアウェアネス・ポータル

3 研修交流

国内外の図書館員を対象とした研修の企画・運営を行っています。受講者が会場に集まる集合形式の研修やインターネット環境を利用した遠隔形式の研修、各地の図書館が開催する研修会への職員の講師派遣等を実施しています。また、これら研修の実施を通じて図書館等との交流を進めています。

4 障害者サービスを実施する図書館への協力



みなサーチ
国立国会図書館障害者用資料検索

みなサーチ（国立国会図書館障害者用資料検索）において、公共図書館などが製作した点字データ、DAISYデータ、テキストデータをダウンロードして利用できる「視覚障害者等用データ送信サービス」を提供しています。また、図書館等からの依頼を受けて、所蔵する学術文献の録音図書やテキストデータを製作しています。



電子図書館事業

国立国会図書館のインターネットを通じた電子情報サービスは、全体の企画、立案を東京本館が行い、関西館はそれに基づき、電子図書館に係る情報システムの開発・運営・調査、電子図書館コンテンツの収集、作成及び提供を行っています。

国立国会図書館はこれまでも新しい情報技術を積極的に取り入れ、様々な電子情報サービスを提供してきましたが、今後も、提供する電子図書館コンテンツを一層拡充するとともに、新しい技術を取り入れ、より使いやすいサービスを提供していきます。

1 電子図書館コンテンツ

国立国会図書館が所蔵する図書、雑誌等をデジタル化し、著作権処理を行ったものをインターネットで提供しています。著作権処理が済んでいないデジタル化資料は国立国会図書館の施設内でのみ提供していますが、そのうち絶版等の理由で入手が困難な資料については、承認を受けた公共図書館・大学図書館等で本文画像を閲覧・複写できます。同様に、登録利用者（本登録）で利用規約に同意された方も、ご自身の端末等で閲覧・複写できます。



国立国会図書館
デジタルコレクション



国立国会図書館デジタルコレクション

2 インターネット情報の収集・保存

ウェブサイトを収集する「インターネット資料収集保存事業（WARP）」を行っています。国の機関、地方自治体、法人・機構、大学、政党、イベント、東日本大震災に関するサイト等を収集しています。収集したウェブサイトのうち発行者からの許諾を得られたものは、ホームページを通じてインターネットで提供しています。また、インターネット等で出版（公開）される電子情報で、図書または逐次刊行物に相当するオンライン資料（電子書籍・電子雑誌）も収集し、提供しています。



WARP
国立国会図書館インターネット資料収集保存事業



インターネット資料収集保存事業 (WARP)

統計

数字で見る国立国会図書館

(令和7年3月末現在)

蔵書数

総計	4811万3609点
図書	1246万9225点
雑誌・新聞	2118万680点
マイクロ資料	914万4027点
録音資料	83万3033点
機械可読資料(CD、DVDなど)	19万6197点
地図	60万4738点
文書類	47万6975点

年間受入点数

総計	61万6815点
図書	16万7602点
雑誌・新聞	40万7376点
マイクロ資料	3087点
録音資料	8715点
機械可読資料(CD、DVDなど)	6250点
地図	3961点
文書類	1万106点

収蔵能力

●東京本館	1200万冊
●関西館	1100万冊
●国際子ども図書館	105万冊

一般に対するサービス

レファレンス回答	60万4011件
閲覧点数	172万2239点
複写処理件数	115万6914件
来館者	66万9616人
●東京本館	45万7444人(1日平均1651人)
●関西館	7万3478人(1日平均265人)
●国際子ども図書館	13万8694人(1日平均492人)

関西館の所蔵資料数

(概数:令和7年9月現在)

●図書	
和図書	412万4000点
洋図書	76万3000点
●逐次刊行物	
和雑誌・新聞	8万2400タイトル
洋雑誌・新聞	4万5500タイトル
●文部科学省科研費報告書	16万9700件
●国内博士論文	60万3000人分

●科学技術資料	
海外テクニカルレポート	264万8000件
海外博士論文	47万8000件
海外学協会ペーパー	20万5000件
欧文会議録	10万3000件
内外規格資料	17万8000件
●アジア言語資料	
図書	51万3000点
雑誌・新聞	9200タイトル

主な電子図書館コンテンツ

(概数:令和7年10月現在)

●国立国会図書館デジタルコレクション (館内限定公開含む)	
図書	253万点
雑誌	140万点
古典籍	11万点
博士論文	32万点
新聞	24万点
官報	2万点
帝国議会資料	3000点
憲政資料	2万点

地図	3000点
録音・映像関係資料	1万点
日本占領関係資料	13万点
プランゲ文庫	5万点
歴史的音源	5万点
他機関デジタル化資料	2万点
電子書籍・電子雑誌	164万件
●WARP(インターネット資料収集保存事業)ウェブサイト	1万4500種
●レファレンス協同データベース	34万4000件

館内利用案内

■利用できる人 原則として満18歳以上の方

※満18歳未満の方で関西館及び東京本館の所蔵資料の利用を希望される方には、個別にご相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。

■資料の利用 館内利用のみ(館外への持ち出しはできません。)



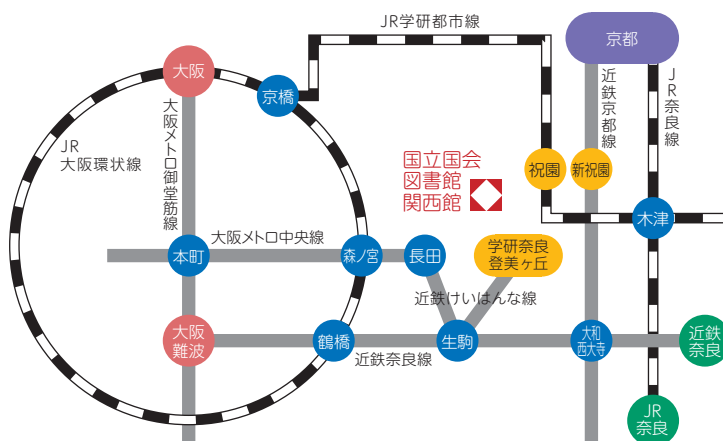
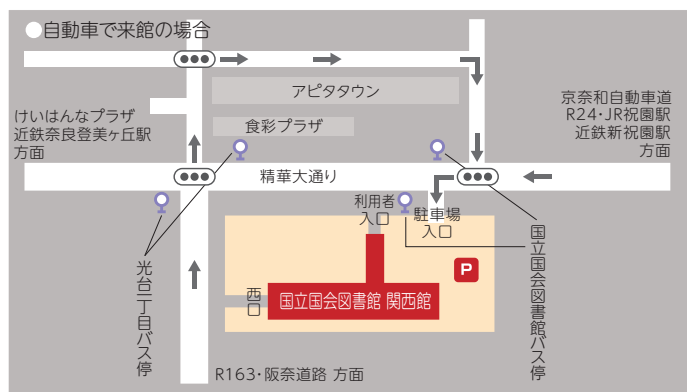
■利用時間

開館時間		9:30～18:00
閲覧サービス	閲覧時間	9:30～18:00
	書庫資料請求の受付(登録利用者のみ)	10:00～17:15
	資料取寄せの受付(登録利用者のみ)	9:30～17:30
複写サービス	即日複写受付	9:30～17:00
	電子情報の印刷(マイクロ資料の印刷を含む)	9:30～17:00
	セルフ複写受付	9:30～17:30
	後日複写受付(登録利用者のみ)	10:00～17:45
資料案内(レファレンス)		9:30～18:00
利用者登録受付		9:30～18:00

■休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、毎月第3水曜日(資料整理休館日)

このほか、災害等の緊急時に臨時に閉館することがあります。
この場合は国立国会図書館ホームページ等でお知らせします。

アクセス



■公共交通機関によるアクセス

- 近鉄京都線「新祝園駅」・JR学研都市線「祝園駅」から
奈良交通バス 36番系統「光台循環」
56、58、59番系統「学研奈良登美ヶ丘駅」
46番系統「光台三丁目」
47番系統「ATR」
「国立国会図書館」バス停下車
- 近鉄けいはんな線「学研奈良登美ヶ丘駅」から
奈良交通バス 56、59番系統「祝園駅」
「国立国会図書館」バス停下車

■駐車場 約200台(無料)

国立国会図書館関西館

〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3

TEL.0774-98-1200(代表、自動音声案内)

■ホームページ <https://www.ndl.go.jp/kansai>



令和8年3月発行

国立国会図書館

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

基本方針

■計画概要

- ・関西館は、年々増加する図書館資料の収蔵スペースを長期的に確保する役割を担っています。
国立国会図書館全体の書庫の収蔵能力を確保するため、関西館第2期施設の第1段階の整備として、関西館書庫棟が建設されました。今後も所蔵資料の増加に対応するため、段階的に機能を拡充する計画としています。

■機能面について

- ・将来的な段階整備を見据えた動線と設備ルート及び本館との関係を考慮したゾーニングにより、明快な書庫エリアを形成しています。
- ・書架に応じた寸法でモジュール設定することで、約500万冊の収蔵が可能な高密度書架配置計画としています。
- ・書庫内を室温22℃(±2℃)/湿度55%(±5%)を制御目標とし、適正な保存環境を保持するようにしています。

■安全面について

- ・書庫には不活性ガスによる消火設備を設置することで初期消火による資料への損傷に配慮しています。
- ・十分な靱性の確保と適切なブレース配置により、耐震性能の高い構造としています。
- ・構造の応答解析に応じた書架の耐震性能を設定し、書物の落下防止措置を講じています。
- ・地中に接する部分は全て外防水をすることで湧水の浸入対策をしています。

■環境面について

- ・書庫と外部空間の間にバッファゾーンという緩衝帯を形成するとともに外断熱工法も採用することで、外部負荷を抑制し、クールピットにより安定した地中熱を利用することで空調エネルギーの負荷軽減を図っています。
- ・雨水再利用設備を導入し、省資源化を図っています。
- ・屋上南側に太陽光発電設備を設置するとともに、照明設備もLED照明及び照明センサーを採用し、環境面に配慮しています。

■景観面について

- ・本館より高さを低く抑え、かつ幅を揃えることで従属的な関係として計画し、繊細で重厚感のある外装とすることで本館との対比的な調和を図っています。
- ・東西の門型が連続した外装は南側に段階整備を繰り返していく際に外観の一体的連続性を保ちながら資料や情報が増加する印象を作り出すことを意図しています。
- ・本館ガラスキューブに正対した北側の一部をガラス壁面で構成し、廊下中央に自然採光を確保しています。

施設概要

施設名称	／国立国会図書館関西館書庫棟
所在地	／京都府相楽郡精華町精華台8丁目1-3
地区地域	／準工業地域、特別用途地区、 第5種高度地区、法22条区域
主要用途	／書庫
敷地面積	／82,665.38㎡
建築面積	／4,680.24㎡
延床面積	／24,998.07㎡
構造形式	／鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造
階数	／地下1階地上7階
高さ	／26.47m
発注者	／国土交通省近畿地方整備局
設計者	／株式会社日本設計
工事監理者	／株式会社礎建築事務所
工事施工者	／五洋建設株式会社 住友電設株式会社 大成設備株式会社
竣工年月	／令和2年2月



 国立国会図書館

令和6年3月発行



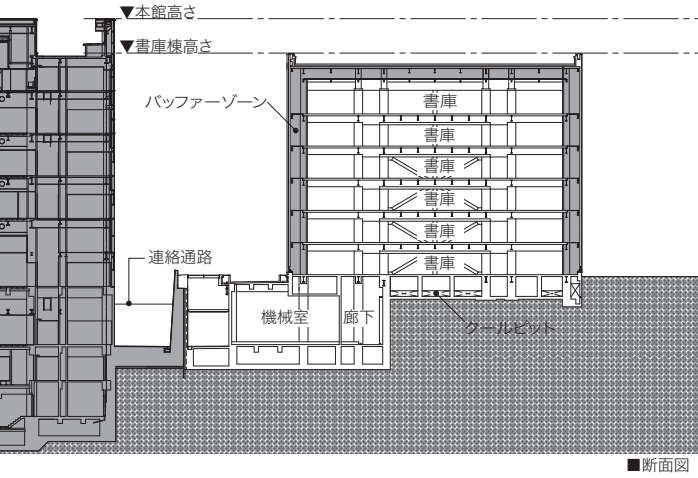
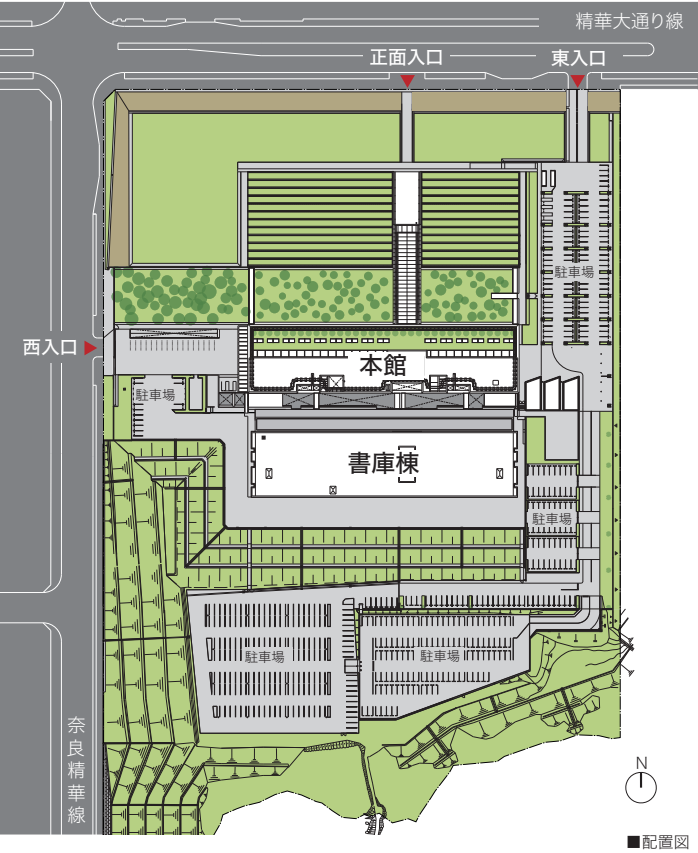
国立国会図書館関西館 書庫棟

Kansai-kan Storage Annex of the National Diet Library



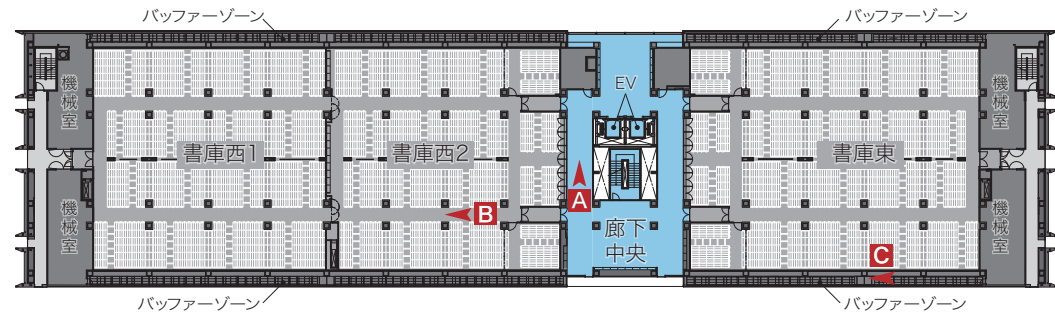
配置構成

本館の南側に幅を揃えて配置しています。
正面入口、東入口は来館者用、西入口は来庁者用としています。

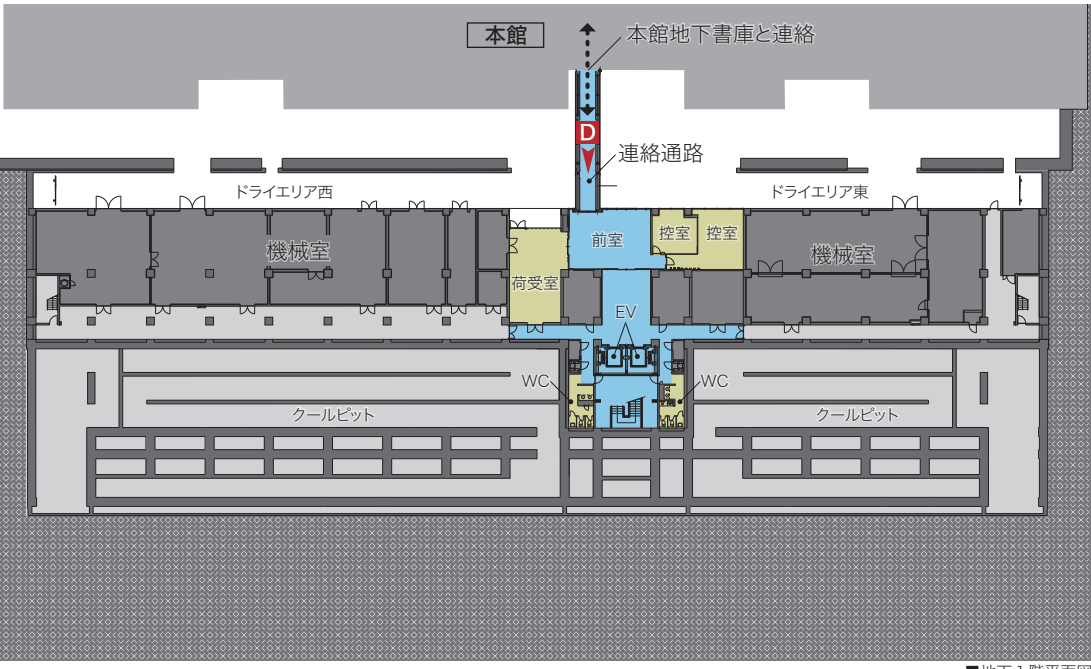


平面構成

均等整形スパンを採用しています。階段、EV等の共用部を中央に配置し、その両側に書庫、さらにその両端に機械室を集約しています。将来増築時には共用部の廊下や設備インフラをシンプルに延伸できるようにしています。



■ 1～6 階平面図



■ 地下1 階平面図

断面構成

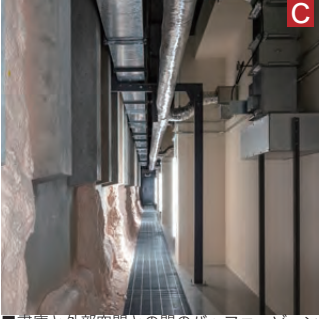
書庫の空調負荷を抑えるために気積が小さくなるよう最小限の階高設定としています。書庫の外周は外部負荷を抑制するパufferゾーンで三方を覆い、空調負荷の軽減を図っています。



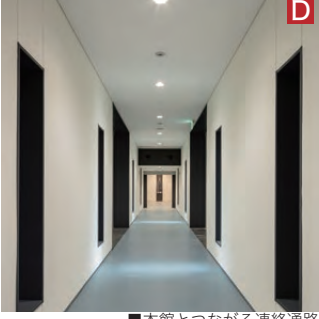
■ ガラス壁面越しに見える書庫



■ 手動ハンドル式の集密書架



■ 書庫と外部空間との間のパufferゾーン



■ 本館とつながる連絡通路

【書庫棟増築にあたり】

国立国会図書館は、日本国内で刊行された全ての出版物が納本される、またこれらの図書館資料を一般に公開する我が国唯一の国立図書館です。東京本館と関西館が一体となり図書館資料を収蔵することにより、国民の文化的財産を未来の世代へ伝える使命を果たしています。

本事業では、将来的に合計2,000万冊の図書館資料の収蔵を目指す関西館において、既存本館600万冊に加え、段階的に整備予定の書庫棟増築の第1段階として、500万冊が収蔵可能な書庫棟を整備しました。

書庫棟の整備にあたっては、下記を基本方針と決めました。

- 収蔵能力の拡張にあたり、機能面・安全面・環境面・景観面等の視点からバランスの取れた高性能な書庫整備
- 段階的な書庫棟の増築計画及び最終形を見定め、今後の整備が合理的な計画となし得る建築計画
- 国際コンペを経て建築された既存本館との「相応しい関係性」をテーマとし、既存本館のコンセプトを尊重した全体計画

これらの基本方針を達成するため、企画構想段階から施設の保全段階まで一環して、良質な施設整備に向け長年にわたり取り組みました。本取り組みは、今後予定されている書庫棟の増築計画を始め大規模施設の整備事業や、文化財の収蔵を行う博物館施設などへの応用・展開が見込まれます。

この度、官庁営繕の本質をなす「企画から保全、さらに企画へ」と繋がる、建設プロセスにおける全てのフェーズに携わり、一環して取り組んだ事業でした。

(近畿地方整備局営繕部整備課)

【関西館の工夫】

本館閲覧室の屋根はのこぎり形になっており、南面はハイサイドライトとして、閲覧室に自然光を取り込んでいます。直射日光を乱反射するルーバー付複層ガラスを採用し、柔らかな光が閲覧室に降り注ぎます。屋根の北面にはコウライ芝を張り、断熱効果を高めています。

来館者の入口部分であるエントランスキューブは、ダブルスキンのガラスで囲まれています。パターン模様が施されたタペストリーガラスが、ガラス壁としての質感を高めます。内側のガラスを高断熱・高遮熱のLOW-Eガラスとすることで、室内への日射熱や還流熱の影響を軽減しています。

アトリウムなどの白い漆喰壁は、イタリアンスタッコ仕上げ。変色しにくく、長持ちすることが特徴です。

書庫棟の東西の側面は、本を並べたようなデザインとなっています。今後の段階的な整備において、本が増えるように建物も増えていく想定です。

(国立国会図書館関西館総務課)

関西館について <https://www.ndl.go.jp/kansai/about>

近畿地方整備局HP 令和元年度(平成31年度)に完成した主な施設 <https://www.kkr.mlit.go.jp/build/about/shisetu.html>